

メールレター(29)

令和

モントリオールにも令和がやってきました。日本総領事館公邸で、やっとやってきた遅い、きらきら輝く初夏の日差しを受けながら、令和天皇即位を祝う式典が行われました。遠い海外でも、日本には縁のない人々にさえも、令和天皇の、荘厳で優雅な即位の礼式には、誰もが襟を正しました。忘れかけていた伝統に目覚め、国家の美を意識することになりました。武器弾薬も使わず、テロもせず、誰も傷つけることなく、日本の存在を厳かにアピールする外交的効果は、測りしれません。あくまで優雅に、古式豊かにふるまいながら、超越した国家のシンボルであり得る天皇の強さが感じられました。美、そのものです。

こうした時代に逆行するかのように、マダム田中は、イケバナインターナショナルの定期華道展開催の準備をしておりました。プレジデントというタイトルとは無縁な、優雅さとはかけ離れた、腕まくりの雑用の日々でした。

こうした機会に接すると、欧米と日本の考え方の差をひしひしと感じます。先を見るか、見ないか、総合的判断や組織力があるかないかがはっきりとしてきます。ひとえに華道展といっても、モントリオール市の建物、日本館を使って行うため、参加者リスト、駐車場の許可、植物園入場許可、オープニングセレモニーレセプションのためのアルコール許可証(お酒を飲むには州の許可証が必要)、損害保険の同意書などの膨大なペーパーワークや会場の設定やレセプション開催など、数知れない雑用が待っています。

この雑用も、確認の再確認をして、やっと着手にいたります。それでも、「一やめたー」と投げ出す人も多く、レセプション招待客も土壇場でキャンセル続出するなど、日々、トンボの目のように360度、目を回転させておりました。

「君って顔つきが悪くなってきたね。それに猫背になってきた」

ドリトル先生は気の毒そうに、そうつぶやくのでした。明るく上を向いて微笑む暇などなくなってきたのかもかもしれません。

生け込みの日は少し寒かったのですが、日も差し、荷物持ちをしてくれた友人のご主人が、ふと立ち止まると

「和子、ほら、りんごの花びらが風に舞って降ってくる。」りんごの白い花びらの吹雪です。フワフワとあたり一面に広がります。ぼーっと眺めていたせいか、2人とも花びらを幾つか飲み込んだのではあります。

「ちょっと。行くわよ、2人とも。」

きつい友達の声で花吹雪から離れることになってしまいました。日本館のあたりはこうして、りんごや木蓮やツツジが咲き乱れ、しばし夢心地です。

生け終わり、会場の準備も整いましたが、スピーチを依頼していた方達の1人のモントリオール市植物園園長はレセプション前日に辞め、新しい園長さんになりました。

「新しい園長さんは、昆虫館の館長さんだった方です。日本が大好きな方です。今回は、昨日の今日ですから無理なので、代行になりますが。」

と日本館からメッセージも入りました。他の方へ、慌てて依頼変更をすることになりました。あーもうこれ以上は。。と思っていた折しも、市の夜間サイクリング大会で、会場付近は通行止め、車での来場が極めて困難になりそうだという情報も入り、はらはら、どきどき。。。それでも、会場には沢山の方が集まってくださり、ビオラ演奏のバックミュージックのなか、会場の作品を熱心に眺めて、楽しい時を過ごしてくださり、ほっと胸をなでおろしました。その後2日間に渡り、華道展は開催されました。晴れた土曜日は、ほぼ満員御礼の札が出そうな賑わいでした。毎年熱心に必ず来てくださる方、ミニチュアを楽しまれる方、各流派の生花を楽しまれる方、など様々ですが、中には

「ちょっとお客様、それだけは。。お花には触らないでください。」

花を一本引き抜くと口にくわえて、カルメンさながらに写真を撮り始めたのです。

「ちょっと、お客様、それはお持ち帰りではありません。」

花器ごと持ち去ろうとする人も出てきました。

「質問してもいいかしら？」

「はい何でもお答えしますが。」

「ほら、渋谷にある犬の像ね、あの犬何っていう名前だったかしら」

きっと日本が好きな方なのでしょうねえ。。こういう方は。と、まあ、会場には様々な人達が訪れます。

こうした定期華道展を一週間前に終え、いま、ほっと一息いれております。ドリトル先生ですか？ドリトル先生は、やっとマリーナに船が浮かべられ、手入れに忙しくしております。今年は水量が多いのと強風のため、湖にはまだ出られないようです。船は自分のお城のようなものだそうですから、磨きをかけていることでしょう。